

## 開催しました！！ ニッポンライブ「萌える邦魂」

2021年11月14日(日)、民謡・津軽三味線・和太鼓・踊りと言う日本の芸能を集結させたニッポンライブを長浜市にて開催致しました。

長浜市と言えば、江戸時代から伝わる人形浄瑠璃、曳山祭りで演じられる子ども歌舞伎、和楽器弦が作られている会社があるなど伝統音楽に深い縁があるまちです。

このライブは、そんなまちに生まれた主催者が「長浜をニッポンの音色が絶えないまちにしたい。」と言う情熱を持って2013年に始めたものです。これまでに長浜市内5会場で開催、県内外から15組の演奏家をお招きしました。

これまでは年に1度のペースで開催しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で今回はおよそ2年ぶりの開催となりました。

その模様をご報告致します！

14時開演のライブ。

2部構成で行いました。

まず、1部は踊り「芹の会」の皆さん。地元長浜でご活躍の芹の会さんは今年で結成50周年を迎えられ、民謡や歌謡曲など幅広くレパートリーがあります。その数なんと400曲！

この日も曲のジャンルはさることながら、男踊りから女踊り、ひとり踊りから賑やかな曲まで実に幅広いステージでした。



そして第二部。

津軽三味線と和太鼓の迫力ある楽曲でスタートです。

下は緞帳が上がる1分前の写真。みんな余裕の表情。



その次は、「南部俵積み唄」、「東京音頭」、「佐渡おけさ」、そして滋賀県の民謡「淡海節」などをお送りしました。おなじみの民謡ではお客様も手拍子をしてくださり、会場がひとつになりましたよ。



目玉のひとつが、津軽三味線奏者3人の競演！

仲間だけれど、時と場合によってはライバルにもなる奏者たち。合奏の途中に織り込まれた独奏では三人三様の音色にお客様も身を乗り出したり、ここぞと言うタイミングで拍手をくださったり、会場内が一気に熱くなりました。

それから、この日初披露の曲もありました。メンバーのひとりが作曲した曲。津軽三味線と和太鼓の、出来たてほやほやの曲をお越し頂いた皆様にお届けしました。

津軽三味線と和太鼓って、木枠に動物の皮を張ってあると言う基本構造が同じなのです。津軽三味線では三味線であるのに「バチを打つ」という表現が使われる事があるくらいです。

そんな所以からか、これらの楽器の相性は抜群です。

2部も佳境になった頃、再び芹の会さんのご登場。

出演者全員で「さばそうめん音頭」を披露しました。「さばそうめん音頭」には、長浜の郷土料理であるさばそうめんのいわれや、長浜の風土が絶妙に織り込まれています。親しみある歌詞とメロディーに誘われて、初めて耳にされたお客様も思わず笑顔で手拍子でした。



おかげさまで、2時間のライブは盛大に温かい雰囲気にもまれながら終わることが出来ました。自分の思うように活動出来なかったのち、この日久しぶりに開催できて本当に幸せでした。

「萌える邦魂」の第1回は、まちなかの小さな古民家で始まりました。それがこんな大きなホールで開催出来るまでに成長させてもらえました。踊りの皆さんにも加わって頂けて、開催きっかけとなった情熱の根っこが「音色が絶えない」だけでなく、「芸能が絶えない」にま0で広げられた感覚です。引き続き、このライブは続けていきもっともっと熟成させていくつもりです。これからも温かいお気持ちで見守って頂けたら幸いです。



終演後、出演者全員で記念撮影。  
次回開催をどうぞお楽しみに！